

小千谷税務署長賞

税金に支えられて今がある

長岡市立川口中学校

三年 近藤 美羽

「お母さん。このお菓子百円だから百円頂戴。」

「ああ、このお菓子は百円だけど百八円払わなくちゃいけないから、はい。百八円。」

「どうして八円多く払わないといけないの？」

「ちよつと難しい話なんだけどね、「消費税」っていう税金を払わないといけないの。」

「ふーん。よくわかんないなー。」

当時小学一年生の私は税金について何も知らなかった。スーパーで見かける商品の値札にはどれも値段が二つ書いてある。しかも高い方の値段を払わなくてはならない。そんなことにいつも疑問と不満をもっていた。

そんなある日、税金に感謝する出来事が起きた。私の祖母が不整脈により救急車で救急搬送されたのだ。

「救急車や消防車はね、呼んでもお金がかからないのは全部税金のおかげなんだよ。だから今日助けてもらったように、誰かの命を助けるためにもちゃんと税金を払わないといけないね。」
母からのこの言葉で、初めて税金に興味をもつようになった。

もしもこの世から税金がなくなったらどうなるだろう。救急車や消防車、警察を呼ぶのに高いお金がかかるようでは、呼びたくても呼べない人が多く出て、救える命も失ってしまうことになるだろう。道路整備や除雪が行われなくなれば、交通事故が多発してしまうだろう。学校の教科書や机や黒板、ごみ処理施設に老人ホーム……。よく考えてみると私たちの生活のあれもこれも全て税金に支えられている。税金がなくなってしまうと今のような平和な暮らしはできないと思う。

八パーセントから十パーセントになった消費税、最初は不満に思っていた。でも私が払っている何倍も生活で税金に支えられている。そして今日もこの国に住む誰かのために使われている。私がお金を買って払っている消費税でも、日々の暮らしの安全と平和のために役立つことができていると思うと、すごく嬉しい気持ちになる。

中学生の私が今払える税金は消費税しかない。しかもそのお金は母や祖母からもらったものだ。将来、私が働くようになったら、払うべき税金をしっかりと払いたい。自分のためや家族のためだけでなく、誰かの命を救ったり、これから生まれてくる子どもたちの教育に少しでも役立ちたい。税金によって、今まで安全に生きて、勉強して、楽しく過ごすことができた。今度はその恩返しをしたい。

私が働くようになるまであと数年かかるが、それまで税金に感謝して、生きていこうと思う。そして、私が母から教わったように、これから生まれてくる子どもたちに、税の大切さを伝えていきたい。